

4 所内月例カンファレンスの実績と今後に向けた検討

○神崎 萌絵

要約

東京都家畜保健衛生所（以下、「家保」という。）では職員個々の能力および組織としての業務遂行能力の向上を目的とした月例カンファレンス（以下、「カンファレンス」という。）を、2010年より原則毎月一回実施している。カンファレンスを行うなかで、担当を超えた意見交換の場を設けることによる利点も見られる一方で、様々な改善点も見えてきた。そこで、2022年度までのカンファレンスの開催実績をまとめた上で、より充実したカンファレンスの実施に向け、所内においてアンケートを実施し改善を図ることとした。2022年度までの発表内容を分類したところ、日頃の業務に関連した発表および報告が最も多かった。アンケートでは主にカンファレンスの開催時間、発表内容、オンラインでの実施に関して意見を募った。開催時間に関して、終了が退庁時間を過ぎることもありもう少し早めたほうが良いのではないかという意見もあったため、早めの出張時間の設定、タイムスケジュール管理の徹底など、可能な限り全員が参加できる体制を整えたい。カンファレンスの内容は、防疫派遣報告に関して参考になったという意見が多かったため、今後も派遣報告の場を設けていく。今年度導入したオンラインでの実施に関しては、現地の音声聞き取りづらいときがある、質問・意見を言いやすくするための工夫が必要であるとの声が多かったため、オンラインでの開催に関するマニュアルを作成する等、今後改善を図っていく。

家保においては、職員個々の能力および組織としての業務遂行能力の向上を目的としたカンファレンスを、2010年より原則毎月一回実施している。2022年12月時点で開催回数は85回、演題数は235に上る。カンファレンスは防疫、指導、病性鑑定の各担当より1名ずつ選出される幹事3名によって運営されている。基本的には家保における現地参集での実施だが、新型コロナウイルスの拡大に伴い八丈支所職員およびテレワーク実施者に向けて、近年ではオンラインでの参加も併用している。

の演題を、家畜衛生に関わる日常の研究調査や研修・防疫派遣の報告、家畜衛生には関わらない業務改善事項に分類した。日常の研究調査は普段の検査業務や管内で発生した疾病に関する検討、防疫担当が主催する防疫演習の振り返りや飼養衛生管理基準の目合わせなどが含まれる。分類の結果、家畜衛生に関わる日常の研究調査が53%、研修・派遣の報告が39%と家畜衛生に関わる発表が大半を占める結果となった（図1）。しかしながら、業務改善事項に関しても8%と少なからず発表が行われていることがわかった。

発表内容の概要

これまでのカンファレンスにおける発表内容を把握するため、2022年12月時点における235

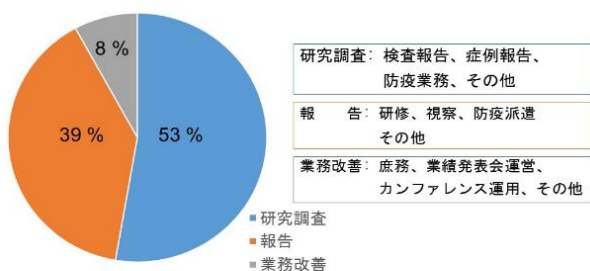


図1 発表内容分類

カンファレンスの発表は日常業務に即したものが多く、突発的に発生した伝染病やイベントに関連したタイムリーな発表もある。2010年4月に宮崎県において口蹄疫が発生した際にはそれに関連した防疫派遣報告や研修の受講報告、防疫演習の視察報告が行われた。

また、東京都においてスポーツイベントを開催する際には馬術競技等を実施するにあたり、馬の防疫対策が必要となってくる。2013年の国体、2021年のオリンピック・パラリンピックの開催にあたっては東京都での開催の参考とするため、他県の実施状況の視察報告および会場視察の報告が行われた。

アンケートの実施および結果

新型コロナウイルスの拡大に伴いオンライン開催の導入など、開催要領を定めた2010年時点では想定していない状況も出てくるようになった。そこでカンファレンスへの参加が職員各々にとってより充実したものとなるように、カンファレンスの開催およびオンライン参加に関する意見を募り改善点を洗い出すために、家保全職員を対象にGoogleフォームを利用してアンケートを実施した。アンケート結果は27名中24名から回答を得ることができた。

1 カンファレンスへの参加状況

今年度のカンファレンスの参加状況を尋ねたところ、「ほぼ毎回参加」が50%、「半分(4、5回)」

が25%、「数回(2、3回)」が21%、「ほとんど参加していない」が4%という結果になった(図2)。出席できなかった回について、どのような理由で出席できなかったかを尋ねたところ、「出張で所内にいなかった」「優先すべき担当業務や検査業務があった」「休暇と重なった」という意見が上がった。今年度は事前に予定表にカンファレンスの予定を入れるという方法をとっていたが、来年度以降も同様の方法を取り、参加者が最大となるような日程設定を行いたい。

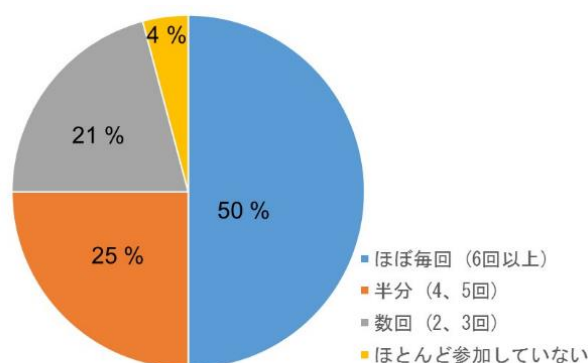


図2 カンファレンスの参加回数

2 カンファレンスの開始時間

現在のカンファレンスは開催要領に則り開始時間は15時を設定しているが、この時間が適切か理由も併せて尋ねた。現在の開始時間である15時よりも早い14時や14時30分を選択した人は、現在のカンファレンスが勤務時間外まで長引いたり、予定時間を超えて行われていたりすることを考慮した意見が見られた。一方で、現在の開始時間である15時を選択した人は出張時間との兼ね合いを考慮した意見が多く見られた。

これらを踏まえた改善案として、カンファレンス前の出張先および時間は可能な限り帰庁時間を考慮して入れるようにする、一演題に対しての発表時間を予め設定し長引きすぎないように司会がタイムスケジュール管理を行う、現行の月1回の開催にとらわれず必要に応じて開催回数を

増やすなどが考えられた。

3 発表内容

発表内容に関して職員の要望をくみ取るため、「優先順位が高いもの」および「発表回数を増やしたいもの」を選択肢6つから選択してもらった。選択肢としては開催要領に定められていた、以下

(A)～(F) および (G) その他 (自由記述) とした。

(A) 当所職員が日頃の業務の中で、行った調査・研究・試験等の発表または報告

(B) 病性鑑定事例・症例報告

(C) 家畜衛生講習会、研修会及び畜産中央研修会等を受講した職員 の伝達講習

(D) 国、都道府県及び各種団体等が主催する各種講習会、シンポジウム、研究会等 (以下、「講習会等」という。) に参加した職員による講習会等の概要報告

(E) 職員または外部講師による家畜衛生等の業務の参考となる講演

(F) 業務の参考となる文献、資料等の紹介

(G) その他 (自由記述)

回答の結果、優先順位が高いものとして (A) 日頃の業務に関連した発表・研修および (C) 研修や講習の報告が上位となった (図3)。

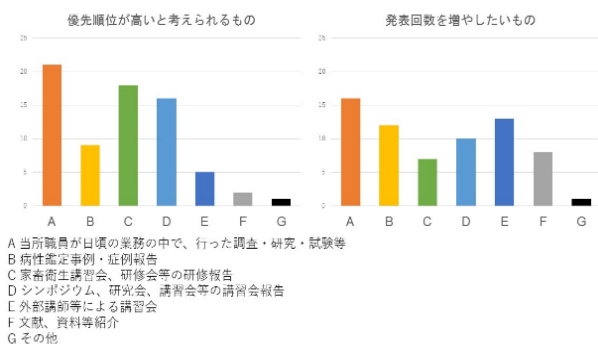


図3 発表内容

一方、発表回数を増やしたいものは優先順位の項目と同様に (A) が最多だったものの、優先順位としては低いとされる (E) 職員または外部講師に

よる業務の参考となる講演や (F) 文献・資料の紹介も需要があることが確認できた。これを踏まえて、これまで発表回数としては少なかった (E) (F) に関しても来年度以降発表機会を設けていきたい。

4 カンファレンスの内容と業務

カンファレンスは日々の業務遂行能力の向上を目的としているため、カンファレンスの内容が日々の業務を行う上で参考になったり、役立ったりすることがあるか具体的に回答してもらった。得られた回答を大きく分けると、研修報告、防疫派遣、担当外の業務に関する把握、となった。研修報告においては、家畜衛生講習会の内容は最新の情報で研修に参加できない職員にとっては大変参考になる、などの意見があった。防疫派遣に関しては自分が派遣された際やマニュアル作成において参考となる、復命書を見るだけでは把握しきれない点もあるためカンファレンスでの口頭発表がとても参考になる、という意見が見られた。東京都においては豚熱や鳥インフルエンザの発生が少なく、派遣に行く際も自県での発生経験を生かすことが難しいため、防疫派遣における情報共有は今後も継続していきたい。

5 不参加回に対してのフォロー

1 により、全てのカンファレンスに参加できていない人もいたとのことなので、参加できなかった回に対してのフォローを充実させるために、参加できなかった回に対しての対応について尋ねた。まず、不参加回について何か対応しているかを尋ねたところ、「必ず行う」が8%、「内容により行う」が46%、「行いたいができない」が29%、「しない」が17%という結果となった (図4)。不参加回に対して対応を行う場合は何をしているか選択制で質問したところ、スライド等の資料を見ると回答した人が多数となった (図5)。この結果を踏まえて、演者側の対応として、カンファレ

ンス後に見直しても発表内容が理解できるよう、PowerPoint のノート部分に原稿ないし補足事項を記載するようにするなど、スライドを充実させるよう呼びかけを行いたい。

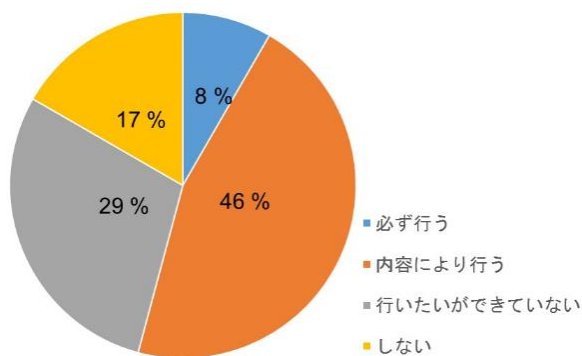


図4 不参加回への対応

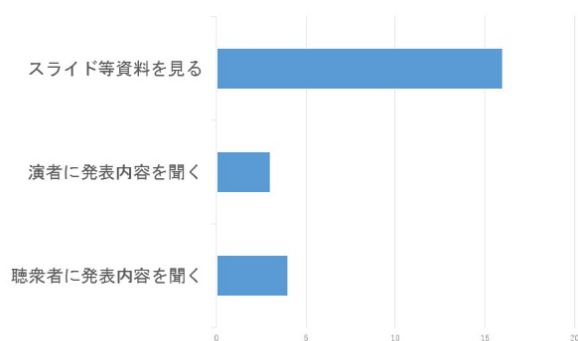


図5 不参加回への対応方法

6 オンラインでの参加

今年度より導入したオンラインでのカンファレンス開催について、改善点を洗い出すため、まずオンラインで参加したことがあるかを尋ねたところ、約7割がオンラインで参加したことがあると回答した。次にオンラインで参加したことがある人へ、オンラインでの視聴時に困ったことを選択肢および自由記述で募ったところ、質問がしづらい、音声聞き取りづらいときがある、発言が現地に届かない、現地の発言者が誰かわからない、予定より開始時刻が遅れる等の意見が上がった。時に質問がしづらい、音声聞き取りづらいときがある、という意見に関しては約半数が回答

しており、今後オンラインで実施していくにあたって、改善すべき課題であると考えられた。

最後にオンラインでの参加がより充実したものになるためにどのような工夫が必要か、オンラインの参加の有無にかかわらず、全員に意見を求めたところ、幹事と参加者双方に関して意見が上がった。幹事側としては、前問であげられていた音声の改善および質問へのしづらさに関して、良いスピーカーの導入、開始前の音声確認、質問等がないか参加者に対する声掛けが改善案として挙げられた。また、現在オンラインに開催に関するマニュアルが存在していないため、マニュアル作成も改善案として挙げられた。参加者側としては幹事だけでなく、参加者全員がオンライン開催に関する知識を習得すること、そして質問等におけるチャット機能の積極的な活用が意見として上がった。

まとめ

2010年より東京都家畜保健衛生所にて実施されてきたカンファレンスについて、2022年度までのカンファレンスの開催実績をまとめた。その結果、家畜衛生に関わる研究調査や研修・防疫派遣の報告だけでなく、家畜衛生に関わらない事案に関してもカンファレンスにおいて検討が行われていることがわかった。また、突発的に発生した伝染病やスポーツイベントなどその時々に応じた出来事にも臨機応変に検討していることがわかった。

また、より充実したカンファレンスの実施に向けて家畜保健衛生所全職員に対してアンケートを実施したところ、様々な面において改善点が上がった。今後について、参加者が最大となるよう前もって開催予定を予定表に入れるようにする、司会がタイムスケジュール管理を行うようにしたい。また、参加できなかった人がいる場合に備

えて後から見直しても理解ができるよう、スライドに原稿や補足事項を記載するよう呼びかけていきたい。また、オンライン参加時においても現地と同様に視聴したり、質問したりできるよう、オンライン参加時におけるマニュアルの作成を行う。

その他意見として、質問等が上がったときの記録の必要性の指摘を受けたため、議事録や画面録画の共有を検討する。